



\*CD1DKBV2005TPQ1M645H\*

14日付 面版名=東三12ト

巻組

校正回数=12

2017年04月13日21時20分54秒

ID=CD1DKBV2005TPQ1M645H◎J1

■金言

118号 3X

17行 8

スペイン国王フェリペ6世が4日から4日間、国賓で来日したが、国王来日前、ペニート駐日大使はあまの資料を王宮に届けた。日本の外交官が執念で明るみに出したスペイン王室と皇家の戦前の交流に関するものだった。

この外交官は前国連大使で駐スペイン大使を務めた吉川元博氏(現・国際基督教大学特別招聘教授)。スペイン語が専門のため、1980年に国王ファン・カルロス1世が国賓で初来日した時、随行



西川 恵

### 金言 kin-gon

事に未席で出席した。ここで昭和天皇が国王に話したエピソードを簡潔的に耳にした。昭和天皇は皇太子時代の21年、半年にわたり欧州を歴訪したが、パリで国王の祖父アルフォンソ13世国王から屋敷のもてなしを受けたという。

「皇国の大使公邸で、お米の料理が出ましたとも話した。戦前、皇室とスペイン王室の交流があったことは一般に知られておらず、固く外交関係者も初耳だった。

2006年、吉川氏は駐スペイン大使で赴任したのを機

## よみがえる日西秘話

に、このエピソードを調べ始めた。スペインの資料に当たった。外交文書館で1921年の駐仏スペイン大使の本國への公電をあさった。ついに裕仁皇太子に関する公電と新聞記事が見つかった。

21年6月2日、パリの日本大使館で皇太子歓迎の夕食会がもたれ、出席したスペイン大使に皇太子が「貴國を訪問できず残念に思っていることを國王陛下にお伝え願いたい」と伝言。アルフォンソ13世はパリ滞在中で、同28日には再び皇太子から「國王陛下

にごあいさつしたい」旨の連絡が入った。このため大使は急ぎよ、翌9日に屋敷会をセツ。当日は随員の随員首載仁親王も出席した。

第一次大戦中、スペインは中立国で、日本の敵国ドイツに代わって日本の利益代表を務めた。皇太子はスペインを訪問できないことを含め、直接國王に気持ちを伝えたかったのではと吉川氏は分析する。

それまで外務省の日西関係資料は16世紀の宣教師サビエル渡来で始まり、明治の開国期を除き、一氣に戦後に飛ん

だが、これによって戦前の空白が埋まった。2017年に皇内庁書陵部から屋敷会のメニューも見つかった。昭和天皇が「お米料理」と言っていたのは、オマールエビ料理の付け合わせで、お米をカレー味で炒めたものだった。

屋敷会の詳細を吉川氏はスペイン外交誌に寄稿。15年には「20、21世紀のスペイン対外政策史」に収められた。ペニート大使が王宮に送ったのはこの要約。吉川氏は好く日本語にする。(宮内庁書陵部)

2017.4.14